

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年12月15日

【評価実施概要】

事業所番号	0174300434		
法人名	有限会社 マザープランニング		
事業所名	グループホーム ぼぶらの家		
所在地	〒088-2302 川上郡標茶町富士5丁目16番地 (電話) 015-485-1165		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成21年11月18日	評価確定日	平成21年12月15日

【情報提供票より】 (平成21年10月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 7人 非常勤 2人 常勤換算 6.9人	

(2) 建物概要

建物構造	木造り		
	1階建ての	1階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷金	有() 円 (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費		円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(10月31日現在)

利用者人数	9名	男性 3名	女性 6名
要介護1	0名	要介護2	2名
要介護3	2名	要介護4	5名
要介護5	0名	要支援2	0名
年齢	平均 82.6歳	最低 72歳	最高 89歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	標茶町立病院、みつもと歯科クリニック
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、釧路川流域の河川敷沿いにあり、幼稚園が隣接している。敷地内には大きなビニールハウスを設置し、色々な野菜やイチゴなどを植え、収穫時期には利用者と園児の楽しみの一つになっている。事業所の敷地内で犬を飼育しており、餌やりが日課として利用者の励みになっている。事業所の理念は「地域の中で穏やかに」「人としての尊厳を損ねないこと」であり、来訪者の目に触れやすい所に掲示し、全職員が会議で話し合い、日々のケアに活かしている。福利厚生面も充実しているため、職員は定着しており、この3年間に職員の異動はない。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価で課題であった介護計画については、利用者の生活歴を個々に把握しながら、一人ひとりの思いをくみ取り、介護支援専門員が中心となって、カンファレンスを重ねながら本人や家族、医師の意見を聞いて作成している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は全職員で行い、管理者がまとめている。職員自身の振り返りにもつながり、自己評価は外部評価とともにサービスの質の向上ができる機会と捉えている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は家族代表、民生委員、地域包括支援センター職員、隣接する幼稚園職員、学識経験者、運営者、管理者、介護支援専門員を参加メンバーとして、年1回開催している。事業所は会議で、自己評価、外部評価、行事案内、利用者の暮らしぶりなどを報告し、忌憚のない質疑応答を交わしている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>毎月の便りは、事業所の行事や利用者の暮らしぶりについての写真を記載するなどカラー刷りで発行し、一人ひとりの状況を便りの下欄に記入して家族等へ伝えるようにしている。また来訪者も多く、職員は、意見や相談事など、気軽に話し合える雰囲気づくりに努めている。苦情相談窓口については見やすいところに掲示しており、役場や在宅支援センター、道国民健康保険団体連合会にも苦情相談窓口があることを知らせてある。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>利用者が徘徊した場合は、商店街など地域の協力を得ている。町の福祉運動会や産業まつり、花火大会などにできる限り参加し、隣接する幼稚園児も敷地内で苺狩りをしたり、お遊戯など披露し、利用者を和ませている。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で穏やかに人間としての尊厳が損なわれることなく暮らし続けることを大きな柱として、事業所独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員会議で話し合い、管理者と職員は理念の意義を理解し日々のケアに活かしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	隣接する幼稚園児が事業所の敷地内のイチゴ狩りに参加したり、お遊戯を披露したりしている。またボランティアの来訪や地元の高校生の実習を受け入れたり、敬老会の誘いを受けるなど、地域との交流を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が評価の意義を理解して自己評価に1ヶ月前から取り組み意識を共有し、ケアの振り返り、サービスの質の確保に活かして、運営者がそれを取りまとめている。外部評価結果は運営推進会議で報告するとともに、来訪者の見やすい場所に掲示している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は家族代表、民生委員、地域包括支援センター職員、隣接幼稚園、学識経験者、事業所職員で構成している。会議では、自己及び外部評価の結果、行事案内、利用者の状況などを報告し、活発な質疑応答があり、出席者から助言を得て、運営に反映している。なお、会議は定期的な開催とはなっていない。	○	今後、運営推進会議の定期的開催に向け、地域住民への呼びかけを期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営者は、町担当者と交流を保っており、法改正やサービス技術の指導を受け、運営に反映させている。町の地域包括支援センターの会議には、毎月計画作成担当者が参加し、質の高いケアサービスの向上に活かしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月便りを発行し、一人ひとりの通信欄を設け、金銭出納状況や請求書、利用者の生活の様子、健康状況などを知らせている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面談予定時間帯は設定しているが、来訪者が多く、気軽に話し合える雰囲気、苦情相談窓口については誰でも見易い所に掲示し、他に町役場、道にも苦情相談窓口があることを重要事項説明書で知らせている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	福利厚生面が充実しており、この3年間職員の異動はなく、利用者も不安なく馴染みの職員と安心して暮らしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新規職員に対して採用時に研修を行い、段階的に外部研修にも参加し、研修結果を全職員に報告して共有化している。職員は働きながら資格取得を目指し、ケアサービスの質の向上に活かしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管内の3事業所で交流を図り助言を得て、運営に反映している。道グループホーム協議会道東ブロックの研修に参加するなど交流を深め、地域包括支援センターや社協との交流の機会が頻繁にあり、情報を交換し日々のケアサービスに活かすよう取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	自宅や病院から直接利用開始することが多く、本人の不安をできる限り解消するよう、家族や職員が焦らずゆっくり声かけしながら共同生活に馴染めるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者から、失敗のない野菜の植え方や昔の遊び等を学び、ともに支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの生活歴を踏まえて利用者に関わっている。事業所が設立6年目を迎え、利用者の重度化が進んできているため、全職員で状況把握に努め、記録を共有し、きめ細かな支援に繋げている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	今年より計画作成担当者が中心となり長期、短期目標を立て本人や関係者と意見交換し、記録しモニタリングも行い、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月1回カンファレンスをし、本人と関係者を交えて話し合い、変化が生じた場合には必要に応じて、その都度見直し、現状に即した介護計画を立てている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	墓参りや外泊、行きつけの美容室へ行くなど柔軟な支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	町内の医療機関に定期的に受診し、健康管理の指導も受けている。町外への通院は家族が対応し、結果を事業所に報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	設立6年が経過し、利用者の重度化が進んでいる。本人、関係者、計画作成担当者が中心に話し合い、変化が生じた場合のマニュアルを整備し、全職員が方針を共有化している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりのケアの記録については、プライバシーに配慮して細心の注意を払うように努めている。また、トイレにはさりげなく声をかけ誘導するなど、尊厳を損なわないよう支援している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できる限り一人ひとりの思いに沿うような支援を心がけている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べやすいように、器も考慮しており、盛り付けや後片付けなど職員と一緒にしている。利用者がハウスで育て栽培した多くの野菜が食卓にのぼり食事を楽しみなものにしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週2回行っている。気が進まないときは音楽を流すなどの工夫をし誘導している。場合によっては、シャワー浴や足湯などの対応をしており、入浴を楽しむものとなるようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎朝のカーテン開け、犬の餌やり、モップかけ、手拭交換等をそれぞれ日課として担い、張り合いのある日々を過ごしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	長距離ドライブは、利用者の重度化に伴い困難になってきているが、できる限り近くの公園に出かけ、草花の観賞や日光浴をするなどの外出を支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵を掛けないケアを理解しているが、防犯上、夜間のみ施錠している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、通報、避難、消火、救急等の総合訓練を消防署指導の下で行っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	検食簿に一人ひとりの食事量、一日1200ccの水分量を記録し、摂取量を全職員が把握しケアに活かしている。さらに、一人ひとりの嚥下状態を把握し、とろみ食、刻み食などを提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は広く、食卓テーブルやソファ、畳の部屋で、ゆったり思い々に過ごしている。壁には季節感を取り入れたものを飾ったり、行事の写真を貼るなどの工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に仏壇やタンス、カーテン、絨毯など使い慣れたものを持ち込み、本人が居心地よくゆったり過ごせるよう工夫している。		

※  は、重点項目。